

岡山県立

博物館だより

2003.10.1

60
号平成15年度
特別展

他界への招待

～お化けはきつといる・
あの世はきつとある～を終えて

年間270万人の観光客が訪れる観光地蒜山高原、その玄関口蒜山I.C.を下りるとトーテムポールが出迎えてくれる。よく見るとあちこちにトーテムポールに似たものが立っている。これは実はトーテムポールではなく、スイトンという蒜山高原に住む妖怪である。このスイトンは人の心を読むことができ、悪いことを考えている人の前にスイーッと飛んできてトンと立ち、その人を喰ってしまうという。人の心を読むことのできる妖怪は覚（さとり）が有名だが、県内にも心を読む妖怪がいた。そしてその妖怪は悪い人を喰ってしまう恐ろしくも正義の妖怪であった。

岡山県立博物館平成15年度特別展「他界への招待～お化けはきつといる・あの世はきつとある」は好評のうちを終了することができた。ここではそのきつといるであろう岡山のお化けにスポットを当てて少しばかり紹介してみたい。

日本三大妖怪の鬼・天狗・河童はもちろん岡山でも活躍している。鬼の代表格は「温羅」、学術名「吉備冠者」、吉備津彦命に退治される桃太郎の鬼のモデルである。出自は百済の皇子とされるが詳細は不明。吉備津彦命に激しく抵抗し、死してなおその首は喰りをあげ、現在でも鳴釜の行事として名残を留めるほど怨念が強い。

残念ながら日本八大天狗に数えられる天狗は住んでいない。しかし、岡山は八大天狗の一つ伯耆大山に住む天狗の庭として、県内各地にその痕跡を残している。美甘村の天狗の通る道に残る天狗の像は今も秘かに森を守っている。

河童、学術名は河童だが、岡山ではゴンゴが主

な呼び方である。やはり県内各地に痕跡を残し、相撲をとったり、馬を川に引きずり込もうとしたりしている。また、蒜山大宮踊りの始まりにゴンゴが関係し、ゴンゴから伝えられたという薬もほんの数十年前まで売られていた。

雷獣は雷を落とす妖怪。文化11（1814）年に美作町に落ちた雷獣の絵が残されている。その雷獣のほかにも県内にはよく雷獣が落ちていて、手当をして天に帰してあげたので、お礼にその村に雷が落ちない話が伝わっている。

なぜか不思議なことに、岡山ではいろいろな物が転がる。茶碗が転がるチャワンコロバシ、てんころが転がるテンコロバシ、槌が転がるツチコロビなどなど、かと思えば井原市や芳井町ではスネコスリが出て通行人の足の間をすり抜ける。危ないから前を見ると牛窓町のサガリのように榎に馬の首がぶら下がることもある。上を見上げると見越し入道が勝田町や津山市に出て驚かされるし、さらには京都まで三步



蒜山の妖怪「スイトン」

でいくという三穂太郎が私たちを見下ろしている。岡山はまさに妖怪の宝庫といえよう。

最後に取り上げるのはクダン（件）、頭が人間で身体が牛、生まれた直後に予言をして死ぬ。その予言は必ず当たるといふ。昭和に県北に現れたというクダンは本当に太平洋戦争終結を予言したのだろうか。今は見ることができなくなった岡山の妖怪たちのフィナーレを飾る出来事として、あるいは妖怪たち最後のあがきとして、きちんと確かめることが私の役目であろう。

(学芸員 木下 浩)

出前講座の御案内

～皆さんの学校に学芸員がおじゃまします！～

岡山県立博物館では、昨年より小学校・中学校・高等学校を対象に『出前講座』を実施しています。今年度は、9月末までに6回の講座を実施しました。出前講座の特色の一つは、現物の資料を学芸員が教室に持ち込み、資料をもとに授業を行うことです。6月18日には、岡山市立豊小学校で「むかしの生活を探る」をテーマに、実際の鎧



と兜の着用を経験してみようという授業を行いました。甲冑は江戸時代の実物で、大きさは小学生6年生が着用して丁度よいぐらいのサイズです。学芸員の指導のもと、鎧を身につけた子供は、重さに驚くとともに、これを着て戦場を走り回っていた武士たちに驚きの声をあげていました。実物資料の持つ説得力を感じさせる一コマでした。

また、昨年10月から11月にかけて、岡山市立富山小学校で、「むかしの人々のくらしを昔の道具から考えてみよう」という授業を行いました。高度経済成長が始まる前に使われていた生活用具は、今日では急速に姿を消しています。たとえば、洗濯板と木製のたらい、湯たんぼ、火鉢、羽釜などは、現在の小学生がはじめて出会うものであり、用途や使い方を本気で調べようとします。

博物館ではこの他にもさまざまなメニューを用意しています。ぜひ、御活用ください。

(学芸課主査 貝原靖浩)

大盛況！博物館れきし体験「古代の勾玉をつくってみよう」・博物館探検

岡山県立博物館では、夏休みの親子を対象とした教育普及事業として、『博物館れきし体験』と『博物館探検』を開催しています。

平成15年度の『博物館れきし体験』は、「古代の勾玉をつくってみよう！」をテーマに、滑石の勾玉づくりを行いました。21組60名が参加され、家族で勾玉づくり比べながら、古代の装身具について楽しく学んでいただきました。



「博物館れきし体験」の一コマ

『博物館探検』は、普段は見るできない博物館の収蔵庫や消毒室など舞台裏を学芸員が御案内するものです。今年度は9組32名が参加され、学芸員の解説を興味深そうにメモしたり、展示品について質問されたりしていました。

両事業とも、来年度も開催する予定です。皆様の御参加を心からお待ちしています。

(学芸員 佐藤寛介)



「博物館探検」の一コマ

笠岡市大飛島祭祀遺跡出土品が国重要文化財に指定！

大飛島祭祀遺跡は、岡山県の南西端に位置する笠岡諸島の一つ、大飛島にある遺跡です。昭和37・38年の発掘調査で、唐花文六花鏡・奈良三彩小壺・和同開珎など貴重な遺物が出土し、遣唐使の派遣に際して航海の安全祈願が行われた祭祀遺跡と考えられています。

古代律令国家の交通や祭祀のありようを物語る大飛島祭祀遺跡出土品は、平成15年5月、国の重要文化財に指定されました。

岡山県立博物館では、これを記念し、特別陳列『大飛島遺跡』を平成15年6月3日～29日まで開催いたしました。

この特別陳列では、笠岡市教育委員会の御協力により、指定品308点のほぼ全点を一堂に展示することができました。会期中には、大飛島島民の方々も大勢御来館され、とても嬉しそうに鑑賞されていたのが印象的でした。

なお、指定品308点のうち、84点は文化庁が所

蔵し、当館が保管しています。当館では、この素晴らしい資料を今後とも定期的に公開し、皆様に文化財への興味と理解を深めていただきたいと思いますと考えております。あとの224点は笠岡市が所蔵しており、笠岡市立郷土館で見ることができます。

(学芸員 佐藤寛介)



大飛島祭祀遺跡出土品（文化庁・笠岡市蔵）

新収蔵資料の御紹介

～昭和9年室戸台風の猛威を物語る文化財～

岡山県総合グラウンド（岡山市いずみ町2番1号）の地中から、家屋材や瓦礫などが大量に出土し、昭和9年（1934年）9月20・21日の室戸台風被害で出たゴミを埋めた場所である可能性の高いことが判明しました。

当該地は、岡山県の新体育館建設予定地にあたり、岡山県教育委員会が平成15年4月～7月末までの予定で実施していた埋蔵文化財の発掘調査中に発見されました。

地表下170cmまでの木くずや埋め土に混じったガラス瓶・陶磁器・鉄製品・土製品・プラスチック製品・ゴム・ブリキ看板などの出土状態から、台風被害の実態や復旧状況、さらに当時の人たちの生活を復元する貴重な手懸かりになると考えられます。

ちなみに、室戸台風被害である可能性を指摘することができたのは、比較的まとまって出土した『中国民報』（『山陽新聞』の前身）の日付を参考にしています。古くは昭和7年6月22日付、新しいものは昭和9年6月3日付が確認されていま



台風被害を物語る出土品

す。おそらく、束ねられていた古い新聞紙が水没により廃棄されたものと思われます。

岡山県立博物館では、その資料的価値を配慮し、岡山県財務規則の物品取り扱いに準じて、約400点の出土遺物を収集・保管いたしました。今後、調査研究を行い、これらに関連する展示を計画することになっています。

(副館長 高畑知功)

ただいま準備中!

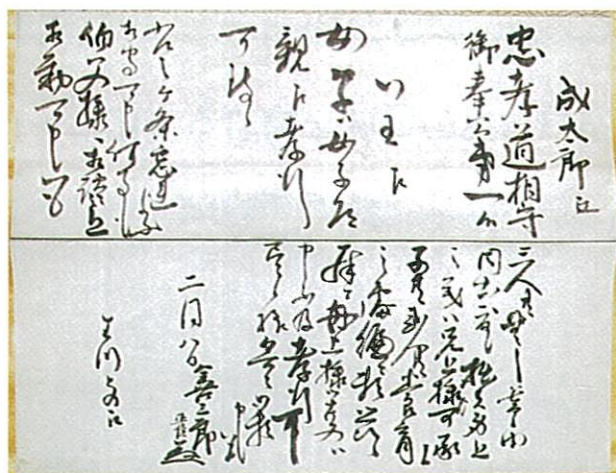
会期：平成16年1月30日(金)～2月29日(日)

特別展 動乱と変革の中で ～岡山の幕末維新～

日本の歴史の中で、明治維新は日本人にとって常に大きな関心の対象となっています。それは、明治維新が日本史上最大の歴史変革であり、単に政治的変革であるだけではなく、社会的・経済的・文化的変革でもあったことに起因していると考えられます。来年1月30日から2月29日までの日程で開催する特別展「動乱と変革の中で～岡山の幕末維新～」では、1853年(嘉永6)のペリー来航から1868年(慶応4)の戊辰戦争、そして1871年(明治4)の廃藩置県までの幕末維新时期について、岡山ゆかりの人物や事件を中心に上げます。今年ちょうど150周年を迎えるペリー来航ですが、これを契機に当時の日本は動乱と変革の時代を迎えます。急激な時代の流れの中で、岡山でもいろいろな人々が、それぞれの立場や信念により、行動していきます。

水戸藩主徳川斉昭の九男として生まれ岡山藩主池田慶政の養子となった池田茂政は、尊王の立場をとりながら、徳川一門出身として江戸幕府そして徳川家存続の道を探り続けます。松山藩主板倉勝静は老中、帯江戸川家の戸川安愛は目付・大目付として14代将軍徳川家茂・15代将軍慶喜、そして幕府を支え続けます。1863年(文久3)の遣欧使節に正使としてフランスへ渡り、ヨーロッパの文明に接して鎖国の非を悟り、これを幕府に訴えた池田長発。新撰組に参加した谷三十郎・万太郎ら三兄弟。一方、尊王攘夷の立場から倒幕運動に参加した人物として、1863年(文久3)の天誅組の変に参加した藤本鉄石、翌年の禁門の変に参加した安東鉄馬、1866年(慶応2)に長州藩第二奇兵隊を脱走し倉敷代官所陣屋・浅尾藩陣屋を襲撃した立石孫一郎らがいます。戊辰戦争期には、部下の助命嘆願のため切腹した松山藩士熊田恰、諸外国からの要求により神戸での発砲事件の責任をとり切腹した瀧善三郎らがいます。宗教関係では、黒住教の教祖黒住宗忠、金光教の教祖川手文治郎らがいます。これらの人物のほか、当時流布した政治批判文や風刺画、あるいは世直し一揆などの資料から、幕末維新时期の動乱と変革の中で、当時の一般の人々が何を考え、どのように行動していたも考えていきたいと思えます。

今回は第1展示室から第4展示室を使用した展示となります。できれば、何回か博物館へ足を運んでいただき、当時の人々の思想・行動を追体験していただければと存じます。(学芸員 横山 定)



妻子宛て 瀧善三郎遺書(個人蔵)

岡山県立博物館 これからのスケジュール

- 平成15年10月10日(金)～11月9日(日)
特別陳列「備前焼の土型」
- 平成16年1月6日(火)～1月25日(日)
特別陳列「国宝赤韋威鎧と太刀一文字(山鳥毛)」
- 平成16年1月30日(金)～2月29日(日)
特別展「動乱と変革の中で～岡山の幕末維新～」

展示解説のお知らせ

岡山県立博物館では、毎月第2・第4土曜日の午後2時から、当館の学芸員による展示解説を行っています。

この時間に御来館いただければ、どなたでも無料で展示品についての専門的な解説をお聞きになれます。(入館料のみ必要)どうぞお気軽に御参加ください。

岡山県立博物館だより 第60号

- 発行日 平成15年10月1日
- 発行者 岡山県立博物館 館長 松井新一

〒703-8257 岡山市後楽園1-5
TEL(086)272-1149 FAX(086)272-1150
【URL】<http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/kenhaku/hakubu.htm>

